

渋谷公園通りに鮮やかに咲く いいたてオリンピア



平成28年に商店街に整備された「福島花壇」。「までいライブ」を顕彰する小さな石碑も置かれています

飯舘村のオリジナル品種として開発されたタイタンピカスの新品種「いいたてオリンピア」。特産品化を目指して、「いいたて村の道の駅までい館」のガラスハウスなどで栽培されています。また、震災以降、福島復興支援を行っている渋谷公園通商店街（東京都）でも栽培され、9月2日には開花の便りが届きました。同商店街振興組合の一員で「までい大使」の塚越栄光さんからの便りです。渋谷地区のミニFM局でも栽培されるなど、現地で応援の輪が広がっているということです。



リーフレットは日本語と英語の両面印刷。9月中旬から山津見神社に置かれています

オオカミ天井絵を解説 英語版のリーフレット

平成25年に火災で焼失した山津見神社のオオカミ天井絵は、多くの人の協力で、同28年に復元されました。そのプロジェクトを企画した和歌山大学・加藤久美教授が、経緯を伝えるリーフレットを制作し、9月4日、神社に寄贈しました。リーフレットは片面が英語版で、記事の内容については、村が震災記録誌の誌面を提供しています。加藤教授が村役場を訪れ、「増加していると聞く外国からの来村者にも、天井絵のことを伝えたいと考え制作しました」と菅野村長に完成を報告しました。



秋晴れの下「しらさわグリーンパーク」の野球場で行われた2回戦は、見応えのある投手戦となりました

市町村対抗野球大会 村チームが2回戦に進出

村の野球チームが、第12回市町村対抗福島県軟式野球大会に出場しました。9月17日の対浪江町戦で5対2と勝利し、2回戦に進出した村チーム。同23日に行われた2回戦の対石川町戦は、投手戦となりました。1回戦でも好投した草野隆洸投手が粘り強く相手打線を抑え、野手も好プレーで援護しましたが、数少ないチャンスを得点に結びつけた石川町に、惜しくも0対2で敗れました。スタンドの応援席も、僅差の敗戦を惜しみながら、選手の健闘を拍手で讃えていました。

みちのくマラソン 間寛平さんらが松川仮設へ

お笑い芸人の間寛平さんを中心に、吉本興業の芸人達がタスキをつないで、東北の被災地に元気を届ける「みちのくマラソン」。今年は8月15日に岩手県山田町から、福島県庁を目指してスタートしました。一行が、松川第一応急仮設住宅に立ち寄ったのは、最終日の同21日。出迎えた住民たちに寛平さんらが気さくに話しかけ、楽しい交流が始まりました。「みちのくマラソン」は昨年も開業したばかりの村の道の駅を訪問しており、2年続けて村に元気を届けていただきました。



村公式キャラクター「イイタネちゃん」も駆け付けて寛平さんと1年ぶりの再会を喜び合いました

飯舘村野球連盟理事長杯 いいたて球場で開催

8月26日、同12日にオープンしたばかりの「いいたて球場」で、「平成30年飯舘村野球連盟理事長杯」が開催されました。この大会は、震災後も村外の球場で開催を続けていて、今回晴れて8年ぶりに村内で開催されることになりました。開会式では、星貴弘理事長（上飯樋）が「野球好きが集まり、また村で試合ができる」と喜びを語り、菅野村長が始球式を行いました。試合はトーナメント戦で、地区や職場でつくる6チームが熱戦を繰り広げ、ファイターズが優勝しました。



開会式の選手宣誓。選手らはすがすがしい笑顔を見せながら故郷でのプレーを楽しんでいました

長泥地区の環境再生事業 住民と関係機関の協力を確認

8月27日、村役場で「第1回飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会」が開かれました。この協議会は、除去土壌等を処理し安全に再生利用することを目的とした「環境再生事業」について、環境省と村が、住民・有識者の率直な意見を聴取するために設置されました。住民からは「里山再生につなげたい」「現場を確認したい」と意見が出され、有識者からも住民参加型の取り組みを支持する声がありました。長泥地区では、事業の本格化に向けて、今年度から実証事業が実施される予定です。



村民8人・有識者5人の委員が、率直に意見を述べ合いました。第2回会議は9月18日に開かれました